



知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.72 2010年3月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

女の子を子宮頸がんから「守る」?! 本当に子宮頸がんワクチンは必要か

“子宮頸がんワクチンを接種した10代の少女が亡くなっている”
と聞いてもあなたは子どもにワクチンを接種させますか？

厚生労働省は09年末、英製薬会社グラクソ・スミスクラインの子宮頸がんワクチン「サーバリックス」を承認し、接種が始まっています。このワクチンは安全なのでしょうか。それ以前に、必要なのでしょうか。

*報道されない被害の実態

子宮頸がんワクチンは米製薬会社マーク(メルク)の『ガーダシル』と英製薬会社グラクソ・スミスクラインの『サーバリックス』のふたつがあります。どちらのワクチンでも死者や重度障害者がでたり、学校接種で体調を崩した生徒たちがいましたが、このことは報道されていません。しかし、昨年9月英国で14歳の少女が死亡したことが報道され、グラクソ・スミスクライン社は原因究明に向け保健当局とともに調査を開始しました。その3ヵ月後、日本はワクチンとの関連性は低いとの見解でグラクソ・スミスクライン社の『サーバリックス』を承認したのです。そして、北大の桜木教授は「腫れや痛みなどが起きることはあるが、重篤な副作用は報告されておらず安全性は高い」と述べています。

*どんなウイルス？感染するとどうなるの？

子宮頸がんを引き起こすとされているHPV(ヒトパピローマウイルス)は、性体験のある女性が一度は感染するというありふれたウイルスです。大半は免疫機能で自然に消えてしましますが、何度でも再感染します。感染しても全員が子宮頸がんになるわけではなく、感染しても病気にならずそのまま終わる人のほうが大多数だといえます。しかし、長期間感染が続いたり、身体が排除できなかった場合は将来子宮頸がんを引き起こすこともあるというものです。

海外では、約100カ国で認可されています。ワクチン接種で子宮頸がんの二つの型の感染を防げるといいますが、効果は推定で15～20年程度。予防には3回接種が必要で費用は約5万円。このワクチンを打っても絶対に子宮頸がんにならないという保証はないので、引き続き子宮がん検診は受けるように勧められています。ワクチンによっては、すでにHPVキャリアの女性に使用した場合、前がん病変の発達を加速させるかもしれないというデータもあるそうです。

*日本では？

厚生労働省は、性行為で感染するため(性行為前の)若いうちに接種するのが望ましいとし、11～14歳を中心に45歳までの接種を推奨しています。埼玉県志木市や兵庫県明石市などが小学6年から中学3年生の女子を対象に費用の全額補助を打ち出すといった動きも。産科婦人科学会、小児科学会、婦人科腫瘍学会は、接種を推奨するとともに、接種費用の公費補助を要望しています。

*恐怖を利用したマーケティング戦略？！

HPV ワクチンを推進するキャンペーンは、「HPV が子宮頸がんの原因だ。だから、HPV ワクチンが命を救うのだ」といういつものお決まりのパターン。ワクチン接種は、もう少し多くの正しい情報がでても遅くはないと思います。ちなみに、イギリスでは税金を使って、ティーンエイジャーを対象に、予防接種をしたら45ポンドの買い物券をあげていたことが社会問題になりつつあるとか・・・。



HPV(ヒト・パピローマウイルス)は、男性も女性も共に感染するありふれたウイルス。HPV のうちほとんどの種類は無害で、症状を引き起こさずに自然に消滅します。HPV のうち約 30 種類が性器部に感染するため性器 HPV として知られています。そのうち何種類かは高リスクで、子宮頸がんや、子宮頸部の上皮に異常細胞を引き起こし、がんに行進することがあります。それ以外は低リスクで、性器イボや子宮頸部の良性異型(異常であってもがんにはならない)を引き起こします。

給食のお米からカドミウム検出

兵庫県神河町で学校給食用米から、農林水産省が食用の流通を規制する基準0.4ppmを超える0.79ppmのカドミウムが検出されました。(食品衛生法の基準値1.0ppmは下回っていた)。この米は、同町内で生産され昨年収穫された米で、小学生ら1500人以上が食べたということです。08年の「事故米」事件から1.0ppm未満以上の濃度のコメは、焼却処分されることになっています。県農業改良課は、カドミウムが含まれていた原因について「土壌に含まれるカドミウムが吸収されないようにする水田の管理が徹底されていなかったのではないかと説明。神河町に隣接する朝来市には73年まで採掘が続いた鉱山があり、鉱石の製錬過程などで流出したカドミウムが川に流れ込むなどしていたようですが、その後土壌改良されたといわれていました。

【カドミウム】カドミウムは長期間人体に蓄積され慢性疾患を発症する。イタイイタイ病の原因物質。腎臓機能を徐々に破壊し、腎尿細管障害、骨軟化症、骨粗鬆症などを引き起こす。



木製家具の購入の注意点

木製家具は、合板で塗装のされたものが殆どです。新一年生の学習机を購入後体調を崩す人が後を絶ちません。そこで、木製家具の選び方を調べてみました。

一般の家具には合板やMDF、パーティクホールドなどが使われています。加工、組み立てにはホルムアルデヒドを含む接着剤、トルエンなどの溶剤系のもの、水性エマルジョン系のものを使用されています。溶剤系の接着剤はVOC(揮発性有機化合物)放散量が多いので注意する必要があります。水性エマルジョン系のものは、塗布した直後でもVOCの発生量は少ないといわれていますが、過敏症の人では反応する場合があります。

家具の仕上げには、塗料やワックスなどを使用することもあります。それらに含まれる有機溶剤のトルエン、アセトンからVOCが放散されます。以上のことから、家具を購入する際には、①できれば無垢材のもの②購入時臭いのしないもの又は展示品を選ぶことで室内でのVOC放散を軽減できます。購入後は、家具を室内に入れる前に、濡らした雑巾を絞って内側も外側もよくふき(ホルムアルデヒドは水溶性なので)、引き出しや扉なども全部開き、風通しのよいところで十分空気にふれさせましょう。食器棚などは、水をいれたコップをしばらく入れておくと、ホルムアルデヒドが水に溶け込むので早く臭いがぬけるそうです。家具の配置は、室内に汚染された空気や湿気がたまらないように、空気の動きに注意し、家具と壁の間に隙間風が通るようにしましょう。新一年生の学習机もこのように手入れを！デスクマットは塩ビでないものを選びましょう。

【MDF】木をおがくずのような繊維状にしたものを圧縮して使ったもの 【パーティクホールド】木材のチップを接着剤で固めた板

アスベスト防護用マスクの備蓄を！

阪神大震災から15年。当時、倒壊した建物から飛散したアスベストを吸い込んだために、最近肺がんなどを発症する人が増えました。この災害を教訓にと『中皮腫・じん肺・アスベストセンター』などが、災害時の石綿被害防止の「マスク・プロジェクト」の取り組みを始めています。飛散したアスベストに対する防護用特殊マスクは1枚500円と高額なためマスクを備蓄する基金も設立しています。兵庫県では、建物から飛散するアスベストの危険性を学ぶ特別授業が、西宮市の私立クラーク記念国際高校夙川キャンパスで行われ、患者の現状や防護マスクの着け方などを学んだということです。

毎日新聞が、地震等で壊れた建物から飛散するアスベストに対する防護用マスクの備蓄状況を全都道府県に尋ねたところ、42都道府県で防災用備蓄がゼロであることがわかったそうです。直接身近に被害がでるまで動かないのでは、市民の健康を守る立場の行政としては困ります。子どもたちを優先的に早急にマスク備蓄の手配を進めていただきたいものです。



プラスチックも缶もやめませんか？



ビスフェノールAが、深刻な健康被害を招くとする研究結果は、過去 10 年間に 130 以上報告されています。前号で掲載しましたこの物質の有害性についてまとめてみました。

ビスフェノールAとは(Bisphenol A,以下 BPA と略記)

アセトンとフェノールを原料とする。日本では年間約35万t生産され、50%以上は、「ポリカーボネート樹脂(PC樹脂)」の製造に用いられている。他にもエポキシ樹脂の原料、ポリ塩化ビニルの安定剤として広く用いられている。環境庁によると、よく使用されたPC樹脂製品ほど多くのBPAが溶けだす。BPA は食品衛生法によってポリカーボネート製食器からの溶出基準が 2.5ppm 以下と定められている。

ビスフェノール A は、何に使われているの

CD、携帯電話、食器(給食用食器で問題になりました)、箸、哺乳瓶、缶詰の内側の被膜、ビンの蓋や水道管の内側、歯の詰め物や、子どもの歯を被膜するシーラントなどあらゆるものに使われている。道内でポリカーボネート製の食器を給食用に使っている小中学校は、1市2町で計 32 校。(09 年度)

ビスフェノール A は、どのようにして体に取り込まれるの

BPAが体内に取り込まれる経路の一つに、食事を通しての摂取がある。例えば、ポリカーボネート製の食器・容器等からBPAが飲食物に移行するケースや、缶内面のエポキシ樹脂による塗装が施された部分からBPAが飲食物に移行するケースなどが挙げられる。現在ではビスフェノール A を含まないポリエチレンテレフタレート(PET)でコーティングした缶の使用が増加している。

ビスフェノール A にはどんな害があるの(研究報告から)

- ① 国立県境研究所と東京大学の共同チームによる研究結果によると、「BPA を成長したラットが摂取すると、精子が減るなど生殖機能に悪影響がでた」。
- ② 産業技術総合研究所と国立環境研究所の研究グループが、自閉症や注意欠陥多動性障害 (ADHD) 等の心の病気に関連する化学物質を特定する実験をした結果、BPA で夜間の行動が 1.6 倍に増加する等、フェノール類やフタル酸エステル類の一部で落ち着きのない動きが見られた。また、「脳の神経組織の成長が遅れる等の変化も確認できた」。
- ③ 北海道大学獣医学部毒性学教室のグループの研究結果によると、「給食容器でも使われている合成樹脂材料 BPA を投与した母ラットから生まれた子ラットの脳神経細胞の一部が異常増殖した」。
- ④ 米政府は、プラスチック製の食器などから溶けだすBPAについて、「現在の摂取量が、胎児や子どもに対し、神経系や行動、乳腺への影響、女子の早熟を引き起こす懸念がある」とする報告書案を公表した。
- ⑤ 国立医薬品食品衛生研究所(衛生研)などが BPAは、現行の安全基準以下でも胎児や新生児に影響を与えることをラット実験で確認した。
- ⑥ 2004年環境省は、BPAについて、「哺乳類では生殖機能への明らかな影響はみられなかったが、魚類では影響が認められた」とする評価結果を発表している。
- ⑦ 2005年「ネイチャー」のニュースは、BPA が乳癌のリスクを高める可能性があるという新たな研究について報じている。この物質は発情ホルモン・エストロゲンを擬態することが知られており、エストロゲンは胎児の生殖システムやその他の器官の発達に大きな役割を演じるから、子宮で BPA に曝されると問題が起きる可能性があるとしている。
- ⑧ 2006年京都府立医科大学の伏木信次教授らの研究グループが BPA を摂取させ続けると、脳の脳大皮質の形成に影響がでることを突き止めた。摂取しても影響がないとされる微量の BPA を連日投与し、10~18日後に胎児を調べた結果、大脳皮質の神経細胞の分化などの速度に異常が確認された。さらに神経細胞をつくる8種類の遺伝子のうち、甲状腺ホルモンにかかわる3種類の働きに変化が目立っていた。甲状腺ホルモンに異常がでると、発達障害につながる恐れがあるという。
- ⑨ 2009年フランス国立農業研究所が BPA は、極少量でも腸の機能に悪影響を与えることがわかったと米科学アカデミー紀要に発表した。(会報71参照)

ペットボトルからも？

- ・米オハイオ州シンシナティー大のスコット・ベルチャー博士(薬理学、細胞分子物理学専攻)率いる研究チームは「ペットボトルを熱湯ですすいだ場合、最高55倍のBPAが検出される」という事実を明らかにしました。
- ・静岡県立大学看護学部の立岡弓子さんによると、「女性の初乳から、BPA が検出された。BPA を使用した容器を使っていた人は価がやや多くなっていて、特にペットボトル使用の人は、「明らかに差がある」と統計学的に判断される差があった」そうです。



缶から溶出するビスフェノール A について



《津山こだわり本舗 HP 参照》

缶コーヒーなどのコーティング材料も、エポキシ樹脂からPET樹脂に変更がなされている。その代替品として底の白い、PET樹脂缶を使ったコーヒー飲料から、100PPb を超える数のビスフェノールAが検出されたそうです。平均値は 10PPb です。高濃度の数値が出た缶は、胴体と底はPET樹脂でも、ふたの張り合わせのところに接着剤としてエポキシ樹脂が使われていたり、ふたのみ塩化ビニル塗装(安定剤としてBPAが使われることがある)だったとのこと。国立医薬品食品衛生研究所の河村さんによると、コーティングの材質では、プルトップ面の内側がエポキシ樹脂の缶よりも塩ビの缶の方が濃度は高かったそうです。

写真 缶の中をコーティングしている樹脂(津山こだわり本舗 HP)



- 左: 側面と底、上部に継ぎ目のある3ピース缶。内部コーティングはビスフェノールAを原料とするエポキシ樹脂。張り合わせのところに接着剤としてエポキシ樹脂が使われている。
- 中央: 底と本体が一体となった2ピース缶。内部コーティングはエポキシ樹脂。
- 右: 中央の缶と同じ2ピース缶だが、コーティングはPET樹脂で、底が白い。この種類の缶からもビスフェノールAが。

東京都健康安全研究センター年報(2006年)による、蓄水産缶詰食品でも、缶詰内面のコーティングからビスフェノールAが溶出しないようエポキシ樹脂からPET樹脂に改良されていたそうです。さらに、エポキシ樹脂でもビスフェノールAの溶出の少ないものに改良されていたり、缶の接着部分の改良がなされていたそうですが、メーカーによってビスフェノールAの含有量に違いがあったということです。

日本(厚生労働省)の対応

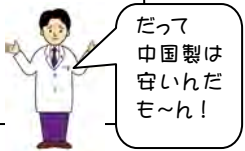
08年妊婦や乳幼児に対し、化学物質「ビスフェノール A」を原料とするプラスチック製哺乳瓶の使用や缶詰製品の摂取を控えるよう呼びかけた。缶詰製品に頼らずバランスある食生活が大切としている。

10年・ビスフェノールAの低用量曝露がヒトの健康に及ぼす影響について、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼し、国内外における必要な情報の収集をしている。・ビスフェノールAの曝露をできる限り減らすよう、関係事業者に対して製品の更なる技術改良を行う等、自主的な取組を要請。

・胎児や乳幼児以外への影響については、動物実験ではそのような低用量での影響が現れるという報告はなく、またそのような影響は胎児や乳児以外では、発現しにくいと考えられていることから、現行の規格値(2.5ppm)と同じ程度のビスフェノールAの溶出があったとしても、成人への影響はないものと考える。

* 食品容器の危険性は、一般消費者には中々わかりません。日本では、ビスフェノールAが溶出しないよう企業が改良を始めたようですが、まだ不十分です。また、輸入品については殆どわかりません。「缶もプラスチックは安全ではない」という認識で必要最低限の使用にとどめたいものですね。国には、輸入品も含めてわかりやすい材質表示を早くお願いしたいです。

* 歯科医の使用材料も私たちにはわかりづらく問題です。歯科医個人が輸入した中国製の歯科技工物がニッケル合金であったためひどいアレルギーに悩まされている人がいるといます。また発がん性があるとされているベリリウムの含有した詰め物などが知らないうちに使われているというニュースを見ました。厚生労働省は、この件について何の規制もせず野放し状態だそうです。患者にだまってお金を塗布する歯科医もいて、近頃、怖くて歯医者に行けませんね！



だって中国製は安心だも〜ん!

【参考資料】 農業情報研究所 読売新聞 毎日新聞 中央日報 '毒物学'誌 厚生労働省医薬食品局審査管理課化学物質安全対策室資料 日本薬剤師会 HP 平成 11 年度厚生科学研究報告書 津山こだわり本舗HP プラスチック/三島佳子 初歩から学ぶ有害化学物質/見目善弘 ここがいけない塩ビ製品/化学物質問題市民研究会